

# 学校教育だより

新たな  
ステップへ



習志野市教育委員会発行

学校教育だより 習志野

検索

習志野市 HP からご覧いただけます

令和2年2月19日 NO. 113

市長から成人にお祝いのメッセージが送られました

新成人を祝う集い実行委員会のみなさん

## 令和2年 成人式典・新成人を祝う集い



習志野高校吹奏楽部による記念演奏

祝う集いは実行委員が進行しました

### 新成人代表の言葉

成人式は、戦後、未来を担う若者達に希望をもってもらうために開催された「青年祭」がルーツとされています。小学校を卒業して8年、中学校を卒業して5年、あそこ描いていた夢はどうなったでしょうか。そして、20歳になった今、どんな夢を描いているのでしょうか。新成人代表による力強いメッセージが語られました。

私たちは数か月前、「令和」という新しい元号を迎え、その「令和」最初の新成人として誇りを持ち、新たな大人の仲間入りとしてその一翼を担いながらも地域や社会にたくさん貢献できるよう努めてまいります。

20年という長いようで短いような月日を重ねてまいりました。時には勉学に励み、時には友人と楽しい時間を過ごし、その中でたくさんの出会いや別れ、楽しさや辛さを学んで成長しました。しかし、この成長は一人で得られたものではなく多くの助けによって得られたものばかりでした。悩んでいる時にそばにいてくれる家族、窮地に陥った時に手を差し伸べてくれた友人や先生、先輩方など、多くの方に支えられてここまで成長することができました。次は私の番です。私が手を差し伸べられる大人になり、たくさんの方へ恩返しをしていきます。(抜粋)

新成人を祝う集い実行委員長 藤本 伸樹さん  
(習志野市立第五中学校卒業)

### 第113号 目次

- ◆幼保小関連研修 …2
- ◆長期研修生の学び …3
- ◆教育研究論文実践記録研修・社会科副読本改訂委員会 …4
- ◆習志野市席書大会・セカンドスクール再開・市民マラソン大会 …5
- ◆習志野高校の活躍・教育長コラム …6





# 幼保小関連研修



## ～小学校との滑らかな接続を目指して～

指導課指導主事（兼こども保育課） 松田 裕美

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の三法が平成30年に完全実施され、第1章総則に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が幼児教育修了時の具体的な姿として示され、小学校教育との円滑な接続を図るよう記載されました。また、令和2年度に完全実施される小学校学習指導要領においても、総則等にて幼児教育と小学校教育との連携が求められています。

習志野市では、昭和46年に小学校1年生の学校への適応を円滑にするための「ヘッドスタートプラン」を策定し、昭和56年には幼・保・小の担当が「5歳児共通カリキュラム」として実施、そしておよそ30年も前から、「幼保小関連研修」として研修を進めてきた歴史があります。

今年度の幼保小関連研修では、今まで大切に積み上げてきた幼保小の連携や交流会にプラスし、小学校の地区ごとに接続期のカリキュラムの作成に取り組み、今年度最後の研修会では、藤崎地区・屋敷地区・向山地区が発表を行いました。担当の先生方は、昨年度までとは異なり、実際に取り組んでいることを接続期のカリキュラムとして考え、作成するということが戸惑いも多かったことと思います。発表では、「作成に取り組んだことで接続期の流れがわかりやすく、相互理解を図りやすかった。」「幼児の活動を詳しく知ることで、どのように教科につながるかを考えたり朝の集まり等を入学時に取り入れたりすることで安心感につながる事がわかった。」「幼児期の遊びの中の学びがどのように教科につながるのかを考えながら作成することができた。」という成果がみられました。講評では、習志野市総合教育センター 笹生所長より、幼児期に身につけたことやできるようになったことを、小学校でさらに引き出せるような支援が大切であるというお話をいただきました。

小学校になるとたくさん荷物があるけど、どこに何を入れるか自分でできるよ。



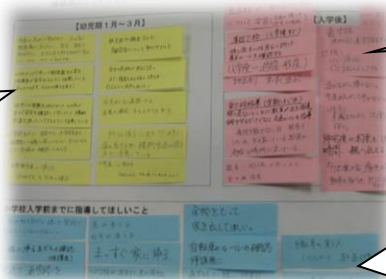
どうやっていいかわかんない・・・



大丈夫。教えてあげるよ。一緒にやってみようよ！！

研修会の後半は「交通安全指導」にポイントを絞り、地区ごとに「幼児期後半に指導していること」「小学校入学時に指導していること」「小学校入学前までにしてほしいこと」についてグループワークをしました。今年度、小学校区ごとに作成した接続期のカリキュラムとグループワークで話し合った資料を基に、来年度は習志野市としての接続期のカリキュラムの作成に取り組みはじめます。年長児の小学校に対する憧れと期待はとても大きいものがあります。小学校は0からのスタートではありません。幼児期に一人一人が自信をもって就学できるように、そして憧れの気持ちがより高まり、小学校へと滑らかに接続できるように努めていきたいと思ひます。

【5歳児後半に指導していること】



【小学校入学時に指導していること】

【小学校入学前までに指導してほしいこと】  
「保護者と一緒に通学路を確認する」「帰りは寄り道しない」など家庭で取り組んでほしいことについても意見が出されました。

# 長期研修生の学び

長期研修とは、現職の教員に対し、学校現場を離れて、1年間の研修の機会を与え、学校教育実践上の諸課題に関する研究・研修を通して教育専門職としての資質能力を高め、千葉県教育の推進者を育成するものです。令和元年度研修生の実践の一部を御紹介します。

## 通常の学級における姿勢指導に関する研究

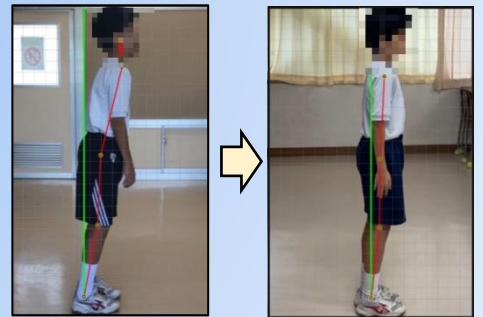
### －RTI モデルに基づいた三層構造の指導プログラムの開発と実践－

習志野市立第三中学校 坂井 祐介 先生（研修先：千葉大学 真鍋研究室）

姿勢は人間の身体と心に様々な影響を及ぼすと言われています。そこで、子供たちの姿勢を良くすることで、身体だけでなく心にも良い影響を与えることができるのではないかと考えました。また、特別な教育的ニーズを有する子供には、姿勢の保持や調節を苦手とする子が多く存在します。そのような子供に対しても、姿勢を整えることで、身体への負担を減らすと同時に、学習に集中することができたり、自信をもてたりすることにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定しました。

通常の学級において、全員を対象とした指導から始めて、子供たちの反応や伸びを見ながら少人数や個別の指導へとつなげていく指導モデル(RTIモデル)に基づいたプログラムを開発し、実践しました。その結果、子供たちの姿勢が改善し、集中力や授業に対する積極性など、学習意欲につながる心理面にも良い効果が確認されました。初めのうちは姿勢の改善が乏しかった子供も少人数や個別の指導を行うことで改善が見られました。課題としては、専門的な知識や機器がなくても姿勢を評価することができる手立てを探っていくことが挙げられます。

今後も研究を続け姿勢が身体と心に及ぼす影響について学校現場に広めていきたいです。そして、子供たちの身体と心を健康にする一つの手段として、今回作成したプログラムをさらに発展させていきたいと思っております。



## 書くことの学習指導における深い学びの実現

### －習志野検定本作りを通して－

習志野市立大久保小学校 小松代 絵里 先生（研修先：千葉大学 寺井研究室）

書くことの指導では、「条件に応じて効果的に書くこと」や「複数の資料を関連付けて書くこと」に課題があると指摘されています。そこで本研究では、習志野市をまるごと情報として扱い、それらを関連付けて市の魅力をクイズ形式で解説する「習志野検定本」の作成と発信を行いました。

児童は、習志野市民を読者と想定して、その関心や知識量を考慮しながら、問題の難易度を設定し、設定した難易度を条件として、解説する内容を詳細あるいは平易にコントロールをしました。

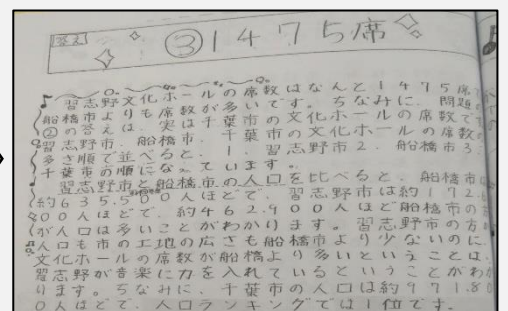
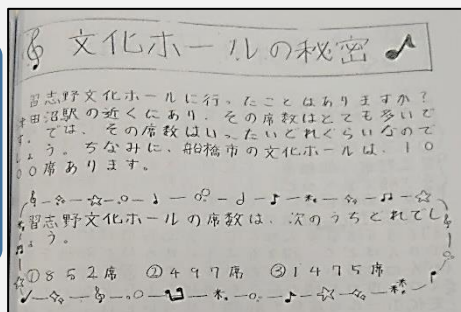
研究を通じて、児童の情報を操作する力や条件に応じて効果的に書く力を伸ばすことができました。また、書き手である児童自身の市への愛着も醸成することができ嬉しく思っています。今回は国語科の実践として行いましたが、社会科や総合的な学習との関連を考えることで、市内で実施可能な汎用性のある単元にしたいと考えています。

児童の「子供の書いた本としてではなく、大人が書いた本物の本と同じように読んで感想を言って欲しい。」という言葉から、最後まで使命感をもって市の専門家として書き続けた誇りを感じ取れました。

↓「習志野検定本」は市役所グランドフロアの情報公開コーナーに展示されています。



「習志野検定本」



「文化ホールの秘密」をテーマに、8種類の資料を関連付けて書いた児童の問題文と解説文の一部

長期研修生の詳しい実践をお聞きになりたい教職員の方は、発表会開催の通知を各学校に送付してありますので、そちらをご覧ください。



# 教育研究論文・実践記録研修

## <最優秀賞>

「場面緘黙児に対する支援について」

～非音声言語によるコミュニケーション手段や音読の活用を通して～

袖ヶ浦西小学校 教諭 小島 拓也

## <優秀賞>

「互いに学び合う交流をめざして」

～人と関わる喜びをもつ、年長組、5年生との交流活動～

大久保東幼稚園 教諭 宮根 直子

「自己表現力を育成する言語活動について」

～コミュニケーション活動を通して「発信力」を高めるために～

第二中学校 教諭 山崎 亜樹

## <優良賞>

「社会科学習へゆるやかにつながる生活科学習」

実花小学校 教諭 沼澤 由

「子どもの多面的・多角的な思考をはぐむ道徳科の授業の工夫」

香澄小学校 教諭 山口 学

「生徒が主体的に取り組み、対話を通して深い学びをする社会科学習」

第四中学校 教諭 高瀬 慧

令和2年1月24日(金)に習志野市教育研究論文・実践記録発表会が行われ、6名の先生方から実践報告がありました。どの実践も、子供たちに力をつけるための研究、先生方自身が力をつけるための研究として、しっかり目的を意識して、まとめられていました。受賞された先生方、おめでとうございます。実践研究論文の詳しい内容につきましては、各校に冊子を配付してありますので、ご覧ください。



令和元年度 研修生一同



最優秀賞 小島 拓也 教諭

最優秀賞受賞 小島 教諭のコメント  
「子供の実態に合わせること」、「子供の思いをくみとること」を第一に考えて、スモールステップで手立てを考え、研究を進め、報告書にまとめました。

# 社会科副読本改訂委員会

今年度の社会科副読本改訂委員会では、令和2年度から全面実施となる小学校学習指導要領や新しい教科書の内容に照らし合わせて、「わたしたちの習志野市」本冊と、教師用指導書、準拠テストの編集を行いました。委員会の構成は、社会科に詳しい市内の小中学校の教職員13名です。市内の3、4年生の児童に「わたしたちの習志野市」を活用した社会科学習をとおして、習志野市・千葉県をより身近に感じてもらいたいという思いで編集作業に臨んできました。各学校には、「わたしたちの習志野市」を活用して、児童が「ふるさと 習志野」に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を育むことを期待しています。



(文責:市総合教育センター指導主事 瀬山 英樹)

## 習志野市席書大会、書初展覧会



プラッツ習志野体育館での席書大会の様子

1月12日(日)に、プラッツ習志野体育館にて習志野市席書大会を開催しました。今年度は、硬筆の小学校1、2年生及び受験を控えた中学校3年生は参加せず、小学校3年生から中学校2年生、及び知的特別支援学級の学校代表の児童生徒が一堂に会し、作品を書き上げました。周囲で、保護者の皆さんや校長先生、担任の先生方が見守る中、集中して取り組みました。話を聞くときも、字を書くときも、良い姿勢を崩さない代表児童生徒の皆さんの姿に、「伝統的文化の継承」とは、

心の構え、身体の構えといったことが中核にあることを実感しました。

この席書大会で仕上げた作品から、「市長賞」「議長賞」「教育長賞」等の特別賞が選ばれ、表彰式を2月1日(土)に行いました。市長賞に選ばれた鷺沼小学校4年生 西かりんさんは「書写は、自分が努力したことが形になって表れるのでやりがいがあります。」と話していました。特別賞受賞者の皆さんのお話で共通していたことは練習量が相当であったことです。努力の成果が発揮されての受賞でした。

(取材:窪田 主任指導主事)



特別賞表彰式の様子

## 鹿野山セカンドスクールでの学び

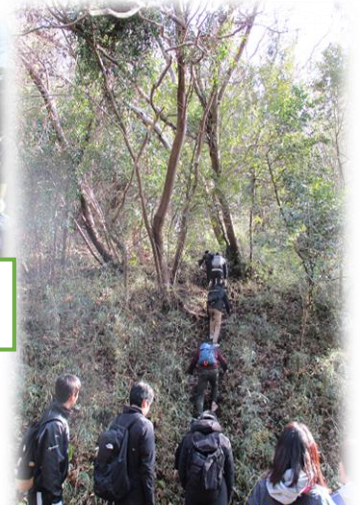
台風被害により実施を延期していたセカンドスクールを3学期から再開しました。再開前には、市内小学校の教職員が参加し、教育委員会やこども部の行政関係者や鹿野山少年自然の家の職員と共に、コースを実際に歩いて安全性を確認しました。

山林の中を散策し、自然の息吹を肌で感じる体験、そして、親元を離れて、仲間で助け合って宿泊生活を送る体験を、習志野市の全ての小学生が経験できるセカンドスクールは、習志野市の教育の特色の一つです。これまで気づかなかった友達の新たな魅力を発見する、冬の澄み渡った星空を堪能する等、素敵な思い出ができることを期待しています。

(取材:窪田 主任指導主事)



景色を堪能しながら地形の話聞く  
津田沼小学校4年生



実踏調査を行う教職員

## 第46回七草マラソン大会



大会9連覇達成!

谷川 凜 さん(第一中学校)

1月12日(日)に、第七中学校グラウンド及び香澄ロードレースコースにて開催されました。

小学校1、2年生の部から一般の部まで、1.2km~10kmの種目に分かれて、健脚を競い合いました。ICチップの導入や種目間のスタート時間を調整することにより、午前中にすべての種目が滞りなく進められ、運営面でも大きな改善が図られました。中学生女子の部で優勝し、小学校1年生から中学校3年生までの大会9連覇を果たした第一中学校の谷川 凜さんからコメントをいただきました。

「小学生からの目標を達成できてうれしいです。「挑戦と継続」を胸に、日本一の高校で世界に通用する選手を目指します!」

(取材:小野 指導主事)



# はばたけ！習高生！

# 雑草の如く逞しく

## ～習志野高校ニュース～

### 【上級学校模擬授業】

1、2年生が「大学コース」、「専門学校コース」、「就職コース」、「公務員コース」に分かれて、模擬授業を受けました。実習形式の授業やプロジェクターを使用した講義形式の授業がありました。どのコースも大変アカデミックで興味深い内容の授業でした。1、2年生は、真剣な眼差しで授業を受け、「卒業後の進路」を考える上で、貴重な時間となりました。  
(習志野高校 荻原教頭)



ヘアアレンジとカット



パンナコッタのデコレーション



犬のトリミング

### 【部活動の結果】

	大会名	成績
男子バレーボール部	第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会	1回戦 善戦
柔道部	第16回千葉県高等学校選抜柔道大会	男子団体 準優勝
男子バスケットボール部	千葉県高等学校新人大会バスケットボール大会	第3位



## ～好きですふるさと習志野～



## 教育長コラム

「日本『読解力』急落15位～過去最低タイ」これはOECD(経済協力開発機構)が79か国・地域の約60万人を対象に2018年に実施した国際学習到達度調査(PISA)の結果として年末の新聞紙上に掲載されたものです。2015年調査時は8位であり、大きく順位を下げたことが取り上げられました。ちなみに「数学的応用力」と「科学的応用力」は上位を維持しています。国語の読解力が下がった理由として文科省は、SNSなどによる短文のやりとりの増加で長文を読み書きする機会が減少したことが一因と分析しています。スマホ時代の弊害ともとれますが、それだけでしょうか。私自身は、もっと長い文章に「取り組む」機会を増やすことが必要であると考えています。本市では、図書室の貸し出し冊数を増やすことに取り組み、成果をあげている学校もあります。また、音読を大切にしている授業も多く目にしました。あとは、鉛筆を持って長い文章を書くことを多くしたいものです。葉書や手紙でも構いません。各種作文コンクールには計画的・積極的に取り組ませたいと考えています。そして大切なことは、1回書いて終わりでは力つきません。教師が読んであげ、添削をして書き直すことこそが必要です。読解力を高めるには、「書くこと=書き直すこと」が一番ではないでしょうか。  
(教育長 小熊 隆)